まちづくり委員会広報

千僧供町

シンボルマークと標語

・かよい合う　心でつなぐ　まちづくり
・いにしえの　千僧の村　皆のまち

編集発行
〒523-0016
近江八幡市千僧供町
会議所内
まちづくり委員会
TEL(0748)37-1234
広報部担当
小川　博久

No. 005

達成する為に何をするかを討議して活動

自治会長　駒場友三郎

皆さん新しい年を迎えてどんな目標、願いや夢を描かれましたか。

東京国際マラソンで復活優勝したQちゃんが、目標は頑張ると成し遂げる喜びを与えてくれるとすばらしいメッセージを発してくれました。私は目標を立てることは苦手なのですが、Qちゃんのメッセージには感激しました。暮れの忘年会で、あの組長さんが、千僧供町でも目標を決めてそれを達成する為に何をするかを討議して活動するようにすべきだと力説していました。まちづくり委員会では「若い人が住みやすい町づくり」をテーマに祭りや生活改善についてKJ法を用いて話し合いを続けてきましたが、皆さんそれぞれにいろんな考えを持っておられますが、小さい時代に取り組まなければならない真剣に取り組まなければならないと思います。これからの自治会としてこれまでの経過や社会の変化に合わせて考えてみたいと思います。引き続き宜しくお願い申し上げます。

（追記）住連房お墓修復費用につきましては目標を上回るご協力をいただき有難うございました。安楽寺さんからのご寄付、募金も戴きましたので玉垣の修復等につきましても改めて検討していきたいと思っております。

今年も盛況だった委員会バザー！

今回で、三回目となる“千僧供町まちづくり委員会バザー”は去る十月三十日に開催されました。馬渕学区文化祭に、協賛し出店させていただきました。今回も町内の各家庭に多大な協力をいただき、提供いただいた日用品や生活用品、提供いただいた新鮮野菜や貴重な糯米、さらには新米や去年よりも多くの物品など等、おかげで充実した商品で店頭を飾ることができました。

今回はバザー会場が小学校の駐車場に変わったことで、当初の客足が心配されましたが、人出を心待ちにしていたのが人、こちら確れで開店前から多くの品物が並ぶバザー、こを売ち保ずに目当ての品を見すにぎわい、売り子が忙しく役らる人メるがて、商品と客接のれ、総売石や葱きての大額十七万一千百六十円を売り上げさせていただきました。今回の催しで、お世話になりました関係各位、ご協力ありがとうございました。

マークの意味

まちのシンボル供養塚古墳をベースに、中央に椿の花を配したこのマークは、『完璧な魅力と誇り、つつしみ深くて気取らない優美さ』の意味をもち、魅力ある町にとの思いを表現しています。

→委員会バザーの様子←

興味津々 まちづくりフォーラム

日頃は、自治会事業に対しまして、ご理解ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、九月四日（日）に開催いたしました、まちづくりフォーラム、第一部では、「住みよいまちとは、誇れるまちとは」と題して、ディスカッション頂き、パネリストから、千僧供町は、スポーツ事業など、一致団結できるすばらしい町であると話され、大変嬉しく、誇りに感じるところです。

また、第二部では、「いろいろえんぴつ」さんによる「人権漫才」、笑いをまじえての人権学習として、大変おもしろく勉強になりました。

今回のまちづくりフォーラム、多数の参加を頂き、盛大に終える事ができましたのも、皆様方のおかげと感謝いたしております。ありがとうございました。

（宮村晃弘記）

今回、より千僧供町民に「まちづくり」を身近なものと考えてもらえるよう、**「住みよいまちとは、誇れるまちとは」**と題して、九月四日（日）千僧供町会議所にて「まちづくりフォーラム」を実施しました。千僧供町に何らかの縁のある、各方面でご活躍の四名のパネリストの方を迎え、これからの地域づくりについて、**パネルディスカッション**を行ないました。

介護関係の方からは、八十五才以上の四人に一人が認知症である今、まだまだ妻や嫁が介護を行う立場になっていることが多い実態が紹介され、家族や行政だけでなく、地域ぐるみでの介護の必要性が説かれました。NPO法人の方からは、一人ひとりは小さな力でも、みんなの力を合わせる事で大きな事を成し遂げられるという可能性についての実例によるお話や、「ぜひとも女性に頑張っていただきたい」との心強いエールが送られました。また、学区の方からは、千僧供町に義理人情がまだ残っていることを誉められ、その大切さを改めて考えさせられる等、興味深くかつ有意義なお話ばかりで、予定の一時間半があっという間に過ぎました。

計画当初、初めての試みのパネルディスカッションに、いったい何人の町民の方が興味を持って集まるのか大変心配していたのですが、当日は会議所広間がいっぱいとなる盛況ぶりで、関係者一同ホッと胸をなでおろすとともに、まちづくりに対する町民のみなさんの関心の高さに、改めて考えさせられてしまいました。もちろん嬉しい結果でした。これからも、ますます町民の皆さんの期待に添えるよう「住みよいまち、誇れるまち」を目指して、町民のみなさんと共に頑張っていきたいと考えます。

（KO記）

まちづくり委員会 各グループ活動状況

「住宅案内板作成グループ」

久郷 勇、小川 敏信、小川 香代美、岡村 律子、小菅 好美、坂田 美智代、富永 美奈子

六枚橋住宅案内図完成

十月三十日、公園前に住宅案内図が完成しました。縦一、二m×横一、八mでアルミ板製です。住宅案内図製作グループが図案を一年がかりで、検討に検討を重ね完成しました。また、六枚橋一軒一軒に番地・名前の掲示の了解を得た家のみ、氏名を載せてあります。次は、大千僧供の住宅案内図の製作にとりかかろうと考えております。六枚橋住宅案内図を見て、ご意見などがありましたらまちづくり委員会までお願いします。

「ＫＪ法研究グループ」

藤居 剛、小川 早苗、小川公子、小川 博司、小川広司

ＫＪ法では、「今後も続けられる祭りをめざして」・「皆が守れる生活改善をめざして」に分かれて、約二週間に一度集まり、深尾さんの援助を得て進めております。ＫＪ法とは、「改善点をより具体的なものにしていく」話し合いの方法です。話し合いをよりよいものにするため、まちづくり委員会のメンバーはもとより、自治会などいろんな立場の方に参加してもらっています。

「標語看板作成グループ」

松本 繁、小川 敏秋、児玉 智広、小川 春夫

標語の看板補修を繰り返し行っていますが、シンボルマークの色あせや雨水、結露によるにじみが特にひどく、今回、業者によるシンボルマークのプレートを作成し、貼付けをしました。

住蓮坊古墳の説明看板（市教育委員会作成）の老朽化がひどく、説明文の判読も出来ない状態です。市教に改善を依頼してきましたが、「今回は石段の改修を行い、説明看板については撤去、廃棄を決定した」と返事がありました。そこで、説明看板の補修改善の後、マップ（マップ作成チームで作成済みの史跡の案内図）を取りつける計画を進めます。そして、市教の説明看板を譲り受けて説明文の補修、説明看板自体の修繕とマップ取付けを行う予定にしています。近年、住蓮坊古墳は史跡巡り観光などで訪れる方も多く、マップを掲示することで千僧供町の他の史跡の配置についても分りやすく、史跡めぐり観光の案内板としてリニューアルさせたいと思います。

「広報グループ」

小川博久、馬場茂喜、小川栄司、小川由一

できるだけ多くの情報を伝えること、他所への広報活動を考え取り組んでいきます。

ハイキング 千僧供古墳の里めぐり

前年雪で中止になったハイキングが一七年一一月二七日(日)に実施されました。当日は大変天候に恵まれ絶好のハイキング日よりとなりました。参加者は約七〇名で、午前十時に八幡駅を出発し不二の滝で昼食・江州音頭↓妙感寺、椿神社↓トギス塚古墳↓住蓮坊古墳↓資料館でトイレ休憩↓易行寺↓供養塚古墳のコースで隠れた名所とのどかな田園風景を満喫しておられました。易行寺では、赤松住職の丁寧な説明を聞き木像を見学、記念品として、まちづくり委員会制作のシンボルマークを形どったキーホルダーを渡しました。

熱心に聞き入る参加者

記念品を配ります

易行寺本堂での風景

新 千僧供探訪

「祭礼に関すること」を題材にまちづくり委員会でKJ法による問題や課題の解決に取り組んでいることは広報第4号にてご存知のことと思います。今回より五月祭りの行事について調査することにしました。（千僧供町に関係すること）

①四村寄り（よむらより）

馬見岡神社祭礼の正式な寄合が四村寄りである。四月二六日（本年より四月二六日に直近の日曜日に変更）午後二時、千僧供町会議所で毎年行われている。平成一七年は、千僧供町が当番に当たり、代理者・組長代表が取り持ち（挨拶）人・給仕人を勤めた。

定刻（ていこく）になると羽織姿（はおりすがた）の関係者が寄り、図のように（次ページ）着座する。全員が着座すると、取り持ち人が「本日は大変お忙しい中ご苦労様です。盃（さかずき）を出させて戴きます。」と挨拶し、給仕人が宮司（ぐうじ）の前と馬渕区長の前に一献目（いっこんめ）の膳を置く。膳には一献目の盃が二つと肴（さかな）としてわかめとハゼ（玉蜀黍（とうもろこし）の煎ったもので、ポップコーン）が載せられている。次に給仕人は、刺し身（お造り）を全員に配り、やがて銚子を持って膳の前に着座すると、一献目の挨拶となる。二人の取り持ちが「宮司さん、千僧供村さん、御一同さん粗酒（そしゅ）ですが一献お上がり下さい。」「西村さん、南村さん、御一同さん粗酒ですが一献お上がり下さい。」とそれぞれが挨拶する。こうして上から順に一献目がまわされてゆく。

注ぎ終わると膳を下げ、二献目の膳を正面に置く。盃がやや大きくなり（二献目の盃）肴は焼きモロコが配られるが、これには木の芽味噌がかけられている。膳のモロコは神様のものなので味噌はかけないそうだ。こうして肴を配り終えると、給仕人は、銚子を持って膳の前に着座する。そこで取り持ち人が二献目の挨拶を行う。二人の取り持ちが「宮司さん、千僧供村さん、御一同さんお盃を改（あらた）めましたのでお粗末ですがもう一献お上がり下さい。」「西村さん、南村さん、御一同さんお盃を改めましたのでお粗末ですがもう一献お上がり下さい。」とそれぞれが挨拶し、給仕人が上から順に注いでゆく。

注ぎ終わると膳を下げ、三献目の膳を正面に出して置く。盃はより大きくなり（三献目の盃）、肴は、根付の蕗（ふき）二本を葉あわせに載せたものである。全員にお茶が配られ休憩となる。ここで、今年度の祭りについて協議事項が諮（はか）られる。進行役は、馬見岡神社総代が勤める。協議は配られた日程表を元に問題点が話し合われる。祭りの運営に係わるすべての責任者が顔を揃えた会議であるから、具体的な部分をきっちり調整してゆく。こうして一応の話し合いが済み、日程表が了承されると、三献目に移る。

各人に肴盛り合わせ（焼き魚・果物）の皿が配られ、給仕人が銚子を持って所定の位置に座る。取り持ちの挨拶は「宮司さん、千僧供村さん、御一同さん先刻（せんこく）より御酒も粗酒、お肴も不加減でお上がりぬくうございますがお盃も当宴（とうえん）で差し上げませんので継ぎ目（つぎめ）下さいまして、お上がりくださ い。」「西村さん、南村さん、御一同さん先刻より御酒も粗酒、お肴も不加減でお上がりぬくうございますがお盃も当宴で差し上げませんので継ぎ目下さいまして、お上がり下さい。」とそれぞれが言うと、千僧供区長が「おめでたいお盃ですのでへのぼりでお回し下さい。」と挨拶があり、取り持ちは「おうせのとうり、そのようにさせて頂きます。」と挨拶する。給仕人は、膳・銚子を持って下座へ移動し、下から注いでゆく。継ぎ目とは、二杯盃を受けることで一杯目の時の盃に少し残し、その上に二杯目を注ぐことで、全員そのようにまわしてゆく。こうして上座までまわり全部終わったら、取り持ちが「ご機嫌ようお上がり下さいまして、お盃を引かさせて頂きます。」と挨拶し、給仕人が膳を下げる。

最後に取り持ちが「納めの盃を出さして頂きます。」と挨拶し、給仕人が膳を馬渕区長・千僧供区長の前に置く。膳には三献目の盃が二つのみ載せられている。次に取り持ちが「納（おさ）めのお盃をおあらため願います。」と挨拶し、馬渕区長・千僧供区長それぞれに注がれる。飲まれたら下座の取り持ちの前に膳を持って行く。取り持ち人が盃一杯に注がれた酒を一口飲み「おめでたいお盃でございますので台所の方でおしょうばん致します。」と挨拶し、給仕人は膳や銚子をすべて台所に下げる。

このようにして盃が終わり全員にお茶が出された後、平成一七年度役割分担表が読み上げられ、千僧供・馬渕・岩倉の各区長が役割分担表の各村の下に押印、これを三枚作り、それぞれの区長に渡されると座敷での行事は終了する。（本年度は、三献目の盃の前の休憩時に役割分担表が読み上げられ、押印された）一同は、退席し、玄関前に集まると、それぞれの扇を広げ、宮司さんの「ハヤラコー」の声に合わせて一同も「ハヤラコー」と叫んで四村寄りを終える。

ここでは、千僧供が当番の時の挨拶文をあげてみましたが、馬渕・岩倉の当番の時は、若干違っている場合（教育委員会が

発行されている調査報告書）もあると思われる。

次回は、御供割り（ごくわり）・卯之刻渡り（うのこくわたり）について調査を予定しています。

参考文献
「近江八幡の火祭り行事」

（お知らせ）

「ほっとてれび」から、5月祭りのビデオをまちづくり委員会で購入しました。見たい方は、委員会までお申し出下さい。

四村寄り席順表（着座図）

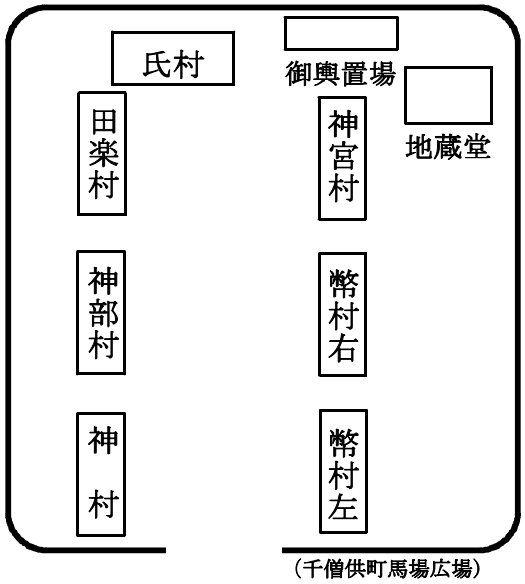
上座

馬渕町区長	宮司	千僧供町区長
○岩倉区長		○椿神社総代（千僧供村役員）
○馬渕氏子総代		○馬見岡神社総代
○馬見岡氏子総代		○大宮社守
○岩倉氏子総代		○椿神社社守
○諏訪神社社守		○神宮長老
○氏村長老		○田楽長老
○神部長老		○神村長老
○幣村長老		○村人（神宮）
○村人（苗衆）		○村人（田楽）
○村人（鉾本）		
○村人（岩倉）		

下座

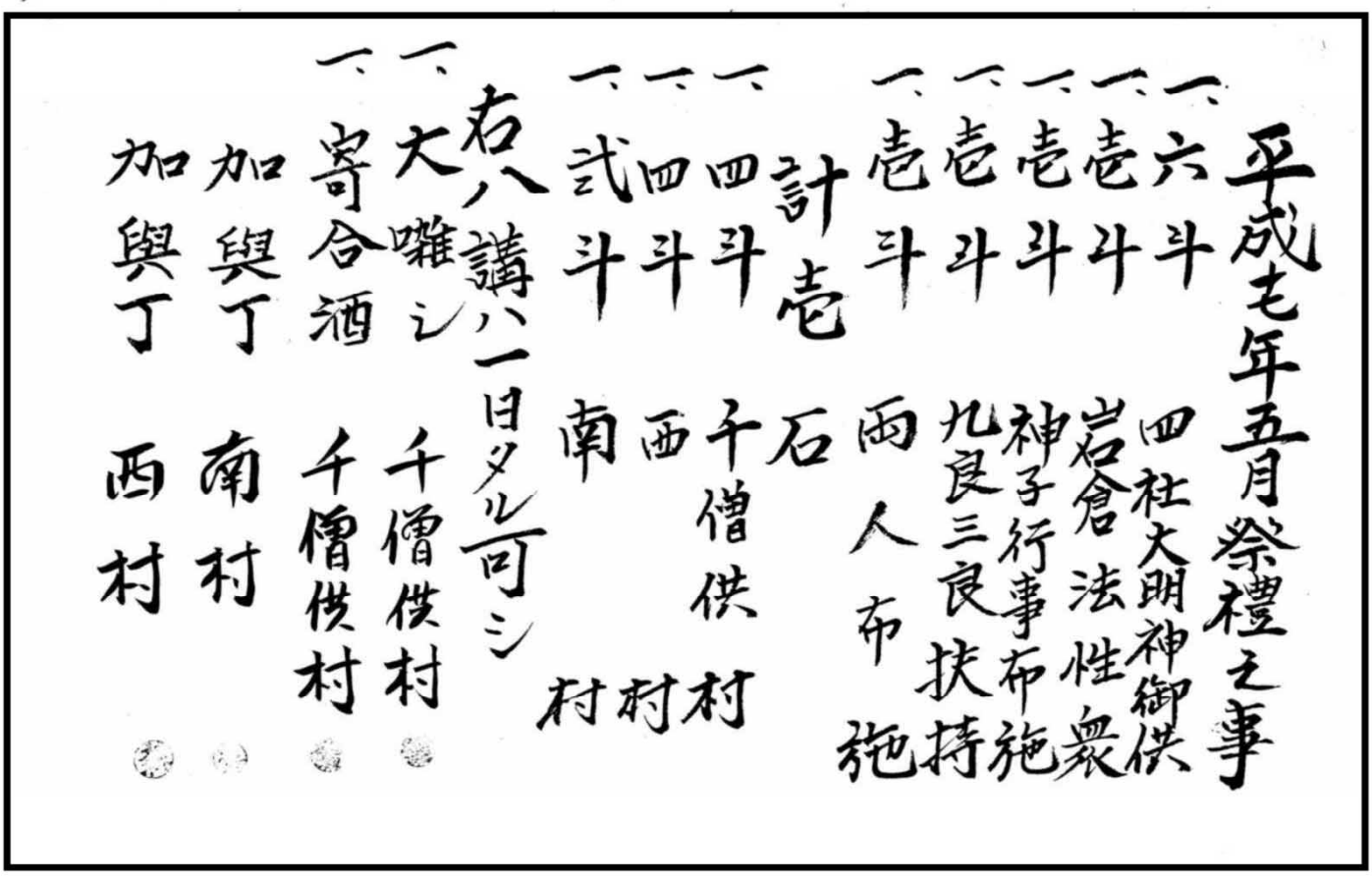
（当番）
○取り持ち　２名　　○給仕　２名

御旅所での六村(ﾃﾝﾄ)配置略図

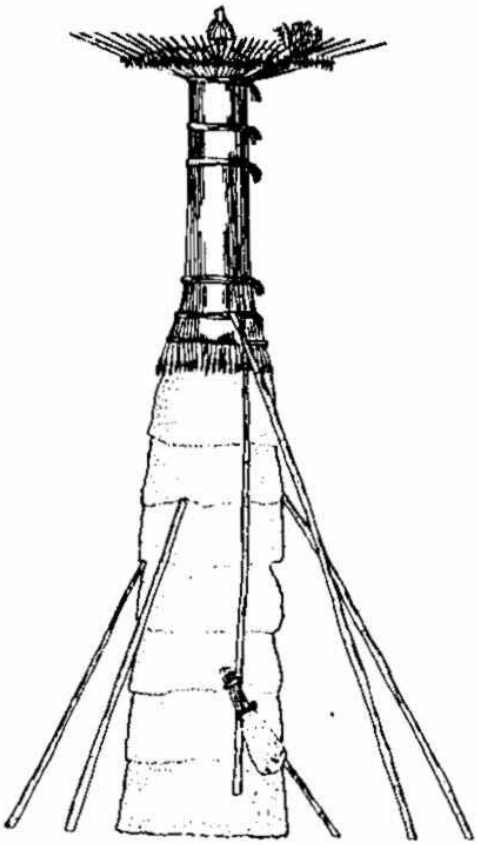


（千僧供町馬場広場）

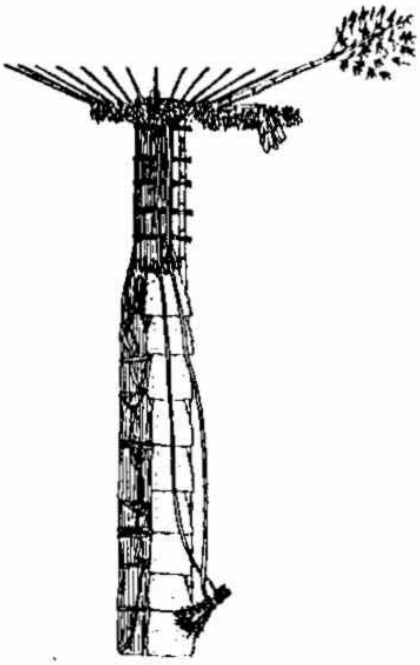
▼　祭礼役割分担表



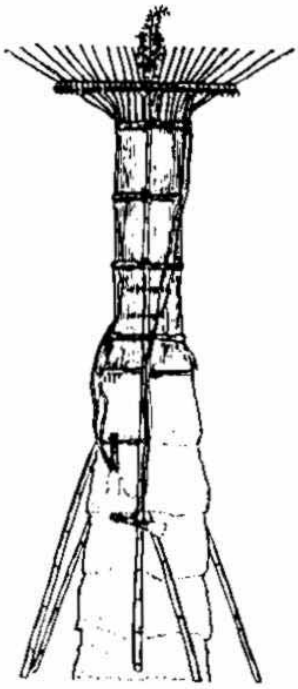
千僧供の松明といろんな松明



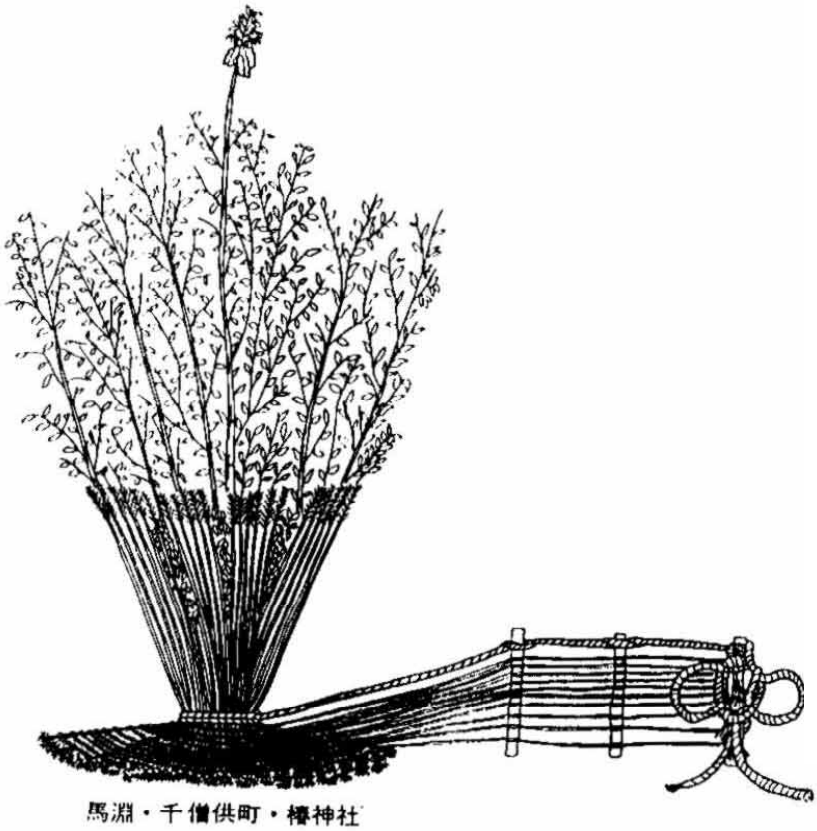
馬淵・千僧供町・椿神社

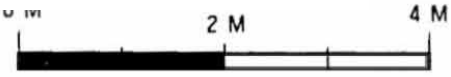


島・円山町・円山神社



金田・西本郷町・本郷神社



馬淵・千僧供町・椿神社

馬淵・千僧供町・馬見岡神社